

残な姿になっています。写真だけ見ると、廃墟しか写っていませんが、この町に当時約35万人の人々が普通に生活を営んでいました。

たった一つの爆弾で、一瞬にして一つの都市が地獄となったのです。住宅のほとんどが木造であったため、ものすごい「爆風」で倒壊し、すさまじい「熱線」で家屋にほとんど同時に火がつき、たちまち街中が火の海となりました。人々は、家の下敷きになって焼かれ、また屋外にいた人たちは強烈な「光線」で身体を焼かれ、またひどい火傷ををおいました。それに、強い爆風で内臓が破裂したり、目玉が飛び出した被害者などが大勢、出ました。



原爆の、もう一つの特徴は、放射能です。奇跡的に生き残った人々も、また生涯渡って身体的・精神的な人間破壊をもたらし、被爆後20年、30年、40年後に増加する原爆後障害に苦しんでいます。このような人間の手によって地獄をこの世に創り出す兵器は、本来造ってはならないものであり、いかなる理由があっても、いかなる民族の上にも使用してはならない絶対悪の兵器です。

私は、現場の特徴の一つである放射能被爆による第2次被爆者です。あの日(8月6日)、爆心地から約8km離れた私の村には高濃度の放射能を浴びたままの重症の被爆者が多く逃れてきたり、トラックで運ばれてきました。私たちの小学校もたちまち臨時の救護所となり、村人総出で介護看護にあたりました。そして次々となくなっていく人たちの遺体を処理することなどに従事して、放射能による2次被爆を受けたのです。

私自身も被爆1か月後に急性肝炎になりひどい黄疸症状が出ました。そしてそれが慢性肝炎となって、今までずっと治療を受けています。

放射能による2次被爆には、介護などにより被爆した人と、直接被爆はしないが原爆投下後に市内中心部に入って被爆した人の2種類あります。私のように介護による2次被爆者は、現在の生存被爆者約27万人の10%にあたり、市の中心部に入って2次被爆した人が26%と、合わせて2次被爆者は被爆者の3分の1に達しています。2次被爆者で全く無傷の人が、1次被爆者(直接被爆者)と同じように、ある日突然、脱毛や下血して亡くなって行きました。原爆被害の特徴の一つ、放射能被害の恐ろしさを強く訴えたいのです。

今まで核兵器の恐ろしさの一端を申し上げましたが、個々が一番大切なのではないのでしょうか。人々がこれから先、特に次の世代を担う子どもたちに、私たちができることは何か、と考えます。

大量破壊兵器を開発して、気に入らない相手を脅かすのか、それでも駄目なら皆殺しにするのか。

もう一つの選択肢は、お互いがそんな兵器を廃絶し、相手を尊重しながら共存の道を探っていくのか、ということになると思います。

人間の叡智と力を結集して世界に平和な社会を築いていきましょう。心から平和を求め続ける希望のヒロシマからブルガリアの皆さまに熱い連帯のメッセージを贈ります。

ブニョブグリー(おれがしろ)



6、12歳で死去

しかし、その願いもむなしく、10月25日の朝、禎子さんは12年の短い一生を終えて、息を引き取ったのである。



7、同級生に大ショック

幼い禎子さんの死は、同級生・竹組の全員に大きなショックを与えた。そして同級生は、「禎子ちゃんのために自分たちも何かをしたい」「近くに禎子ちゃんのお墓があったら、毎日、お参りできるのに」「禎子ちゃんのお墓を建てられないだろうか」と話し合ったのである。



チェルノブイリ原子力発電所の事故はタブー？

「被爆者の証言」では、昨年8月にダミャノフ市長とともに被爆60周年平和記念式典に参加したマリアさんが同時通訳(日本語からブルガリア語)をボランティアでしてくれた。参加者は終始、熱心に聴き、被爆者の悲惨さを知り時折、涙を浮かべていた。

通訳を交えて約1時間30分の「被爆者の語り」はアツという間に過ぎ、参加者から「佐々木さんの身体は大丈夫か。十分気をつけてください」「話したくなかった事をよく語ってくれた。まさに、平和の天使のようだ」と質問やねぎらいの声が続いた。

被爆者の証言の後、「チェルノブイリ原子力発電所の事故のことを知っているか」との質問が出た途端、5、6人の参加者から「ロシアを非難することになる質問はするな」とばかりの大きなざわめき起きた。これに、佐々木理事は冷静に答えていたが会場の様子から、国民の大半が500年間のオスマントルコの圧政からブルガリアを解放してくれたロシアに感謝している親口派という国情の複雑さが垣間見えた。それだけに「核汚染」「被曝」が人類や地球環境に与える脅威と、どこかの国の核兵器も核汚染・被曝は「絶対悪」との認識を共有することが不可欠、と強く思った。

20. 世界の平和を願って「千羽鶴」を折る

最後に、佐々木理事の呼び掛けで、参加者船員で海生会長夫人らとともに世界の平和を願って和やかに「千羽鶴」を折った。それぞれが折った千羽鶴は、各自が思い、出にと持ち帰っていった。



証言後に佐々木理事、海生会長夫人は参加者全員で千羽鶴を折った

21. 来館者や被爆証言を聞いた人たちからのコメント



ヴェセラ・ゲオルゴイエヴァさん
(11)

小学校4年生

被爆して死んだ子どもが可哀想

今日はお母さんに連れられて来たが、原爆展のことは何も聞いていなかった。

展示会場を回って、原爆が落とされた後の家なくなった広島町の町や、苦しんでいる被爆者の写真を見て、心が苦しくなった。被爆して死んでいった子どもたちが可哀想でならない。

原爆がこんなにも恐ろしいものかということを知り、恐ろしくなった。原爆は建物だけではなく、人の健康や心も壊していく。

このようなひどく悲しいことが再び起こらないように、世界中から核兵器をなくして欲しい。



ディヤン・ジェラスコクさん

(31)

私塾英語教師

多くの人に核の脅威を知って欲しい

被爆者から初めて、原爆による被害状況を聞いて驚くとともに、原爆の恐ろしさを世界の一人でも多くの人に伝えて核兵器をなくしていこうと活動されている佐々木さんの生き方に感動した。

原爆投下のことはテレビで見たことはあるが、被爆者に会い被爆者の口から直接話を聞いて、新たな角度から戦争を考えることができた。

戦争、核兵器は絶対にいけない。友だちや生徒にも原爆写真展を見に来るように呼び掛け、一人でも多くのブルガリア人に核兵器の脅威を知ってもらいたい。

8. 禎子ちゃんの像を

そして、「禎子さんだけじゃない、原爆の犠牲になった子どもたち皆のために、平和記念公園に像を造ってはどうか」との声が高まっていった。



9. 原爆の子の像建設へ

1957(S32)年1月、平和記念公園の中に「原爆の子の像」の建設を正式に決定した。同級生は、街頭募金などを始め、多くの市民に協力を訴えた。

10. 全国的に波動

この活動がマスコミに大きく報道され大きな反響を呼び、全国の3000校をこえる学校から「像の建設に役立てて」という手紙と募金が送られてきた。

全国の多くの人から浄財が寄せられ、原爆の像が完成したのは、1958(昭和33)年5月5日の「こどもの日」で、佐々木禎子さんが亡くなってから2年後だった。

11. 原爆の子の像完成

「原爆の子の像」の除幕式は、広島市内の小・中・高校生をはじめ、全国からの児童・生徒や禎子さんの家族など約500人が招待され、盛大に行われた。





テンチ・ツオオヴォさん (55)

主婦

平和の大切さを訴える話に共感

1945年に小学校5年生だった佐々木貞子さんが被爆し、若くして被爆が原因で亡くなったことを勉強したことがある。

今日、佐々木さんの被爆体験を聞き、つらくて心が痛い。戦争が如何に恐ろしいことかを実感した。戦争はいけないと言うだけでなく、平和の大切さを訴える話に共感した。

父は戦争に行ったが無事に帰国した。しかし、父の多くの友人や知人が犠牲になったことを聞かされた。戦争は悪で嫌いだ。戦争で一番の犠牲者はいつも女性と子どもだからだ。



ステファン・パプクチェクさん (53)

物理学者・元大学教師

佐々木さんは平和の大使

佐々木さんは、悲しい自分の過去を、経験をよく思い出して話してくれた、と感動した。

物理学を学んだものとして、核兵器の放射能が人間に如何に悪影響を与えるかを知っている。核兵器は絶対に廃絶しなければならない。

若い人にも被爆のことを聞いて欲しかった。話の時間をせめて18時にすれば、もっと多くの人聞きに来られるのに本当に残念だ。

平和の大使としてブルガリアに来られた佐々木さんには長生きしてもらいたい。

12. 高さ9mに折り鶴

「原爆の子の像」の高さは9メートルで、側面に少年と少女のブロンズ像を取り付けた3本の台座に支えられ、上部に「折り鶴を高くかかげた少女の立ち姿」のブロンズ像がデザインされている。



13. ぼくらの叫び

「原爆の子の像」の前の石碑には、ふたたび原爆によって子どもたちが犠牲になることのないようにという気持ちが込められ下記の言葉が刻まれている。「これはぼくら叫びです これは私たちの祈りです」と。



第1回・原爆展の会場を訪れた人たちは、「戦争はいけない。核兵器は絶対に人類悪だ」「1日も早く核兵器を世界から無くさなければ・・・」と語りながら家路についていた。



22. 市長から夕食会に招待され文化交流で提案を受ける

オープニングの夜、ダミヤノ市長主催の夕食会に招かれた。その席上で、同市長から広島との交流促進のために、当協会と協定を結びたいと希望され、下記のような具体的な提言があった。

- ①世界遺産・トラキア文化の黄金仮面や黄金花輪などの展示会を。
未だ日本には出していないので、広島で巡回展を
- ②広島のFFとカザンラック市のばら祭りでの交流
ひろしまFFにカザンラックから歌舞団、演劇などの参加
カザンラックのばら祭りに広島から参加
ばらの谷女王の広島市派遣と、ひろしまFF女王のカザンラック市派遣
- ③若い人の交流、学生や子どもなどの交流
両国国民の相互理解を永続させるために若者の交流に力をいれたい
- ④文化とアート
展示会、演劇、合唱などの交流
能、歌舞伎など日本文化の紹介
アートデザイナー、写真家などの交流
- ⑤9月はじめに トラキア文化イベント・シンポに
歴史、科学者でトラキアに興味がある人
- ⑥ツーリズムの推進
旅行プロジェクトもある。宣伝面で紹介する



ダミヤノ市長から贈られたトラキア人の墓の天井壁画を焼き付けた絵皿

トラキア墳墓から発掘された黄金製品



ルロー入ったイ



14. サダコが「本」に

その後、サダコさんの生涯が世界の色々な人から核兵器廃絶と世界の恒久平和を訴える「本」として出版され、世界的に反響を呼んだ。

本のタイトルは、「折り鶴の歩み―歴史を省みて」(広島折鶴の会著)、「折鶴の子どもたち」(那須正幹著)、「サダコと千羽鶴」(エレノア・コア著)、「サダコ」(カール・ブルックナー著)など。

日本で23冊、海外35カ国で14冊が確認されている(2001年・H13年)。

V. カザンラック市近郊の戦争犠牲者と平和のモニュメント

ブルガリアは、アジアとヨーロッパの結節点というバルカン半島に位置する地理というところから、古くからアジアの民族とヨーロッパの民族が交わり戦ったり和合したりしてきた。

中でも紀元前20～19世紀ごろにインド語系民族が移住し、トラキア黄金文化を發展させた。時代は下って先住民と混血しブルガリア帝国を築いたが、オスマントルコの侵攻により約500年間も圧政に苦しめられた。その後、多くの犠牲者を出しながらもロシア軍の加勢で、オスマントルコ軍を破り独立国となる。



カザンラック市から北約10kmのシブカ峠の頂上にある高さ約32mの自由の碑。500年間のオスマントルコの圧政から独立したことを記念する石碑。

露土戦争で犠牲となった勇敢な戦没者の記念碑



山の上に建つオスマントルコからブルガリアを解放してくれたロシアを称える記念碑

15. サダコが「歌」に

「ヒロシマの折り鶴」(作曲ダッシュニウム, ガンホヤグ(英), インヘー(豪)、歌 オユンナ

「ヒロシマの少女の折り鶴」(モンゴル民謡)

「折り鶴」作詞、作曲 梅原司平

「SADAKO」ジョージ・ウィリアムスなど。

日本で10曲、海外ではソ連、モンゴル、アメリカ、ドイツ、オーストラリアの5か国で10曲ほど作曲。



VI. 原爆展開催の協力者からのコメントと反響

1. JICAブルガリア事務所長からのコメント



市民レベルの交流を深め両国の絆が続くことを

JICAブルガリア駐在員事務所
所長

香川 敬三 氏

ひろしま・ブルガリア協会の訪問団の皆様、大変お疲れ様でした。

日本ではスモーリヤン地方を舞台にしたヨーグルトのCMの印象が強いと思いますが、百聞は一見にしかずのとおり、現地を訪問されて初めてご存知になられたことも多々おありかと存じます。

今回初めて日本人観光客に人気のあるバラの谷、カザンラック市でひろしま・ブルガリア協会が主催されて原爆展が開催されました。

現地でも協力隊員が中心となって千羽鶴約1200羽をイスクラ博物館に寄贈しました。閉会した8月30日に博物館を訪問しましたが、今回展示されたパネルと千羽鶴は大切に保存して来年も開催したいとのことでした。

首都ソフィアでも毎年8月6日に原爆展が開催されています。この日は人間と地で被爆した敷石に彫られた観音像が公開され、毎年平和の祈りが奉げられています。

第2球博物館次大戦ではブルガリアは、日独伊と同盟したため、米軍の空襲に曝され大きな被害を蒙りました。社会主義時代には原爆の悲惨さが強調されていたので、市民の平和への願いは強いものがあります。

ブルガリアは2007年1月にEUに加盟することが決まりましたが、これにともない13年間続いたJICAの事業も残念ながら撤退することとなりました。カザンラックの専門家チームは来年まで活動していますが、3名の協力隊員は11月をもって全員帰国します。JICA事務所はまだ暫くは存続しますので、この間、ひろしま・ブルガリア協会の皆様が市民レベルでの交流を深められ、両国の絆が続くことを願っております。

なお、私ごとではありますがJICAブルガリア駐在員として4年間滞在しましたが、この程帰国することになりました。ひろしま・ブルガリア協会の皆様には暖かいご支援を賜り、深く感謝しております。今後はブルガリアのサポーターとして努力いたす所存ですので、よろしくお願いいたします。

2006年10月吉日



ダミヤノフ市長と原爆点について懇談する席で
(2006年5月3日)

16. サダコが「映画」に

禎子さんの生涯は、映画界でも注目された。

日本では「千羽鶴」「原爆の子」という映画が2本製作された。

中でも「つるのつるーとも子の冒険」(ピース・アニメの会制作)というアニメーションは日本語、フランス語、英語で作られ、海外でも公開、大きな反響を呼んだ。

海外で製作されたものとしては、英語「SADAKO」(The Sadako Film Project制作)というアニメーションが製作されている。

17. サダコの世界地図

サダコの物語は、本や映画、歌などを通して世界各国に紹介されて、反響を呼び、アメリカをはじめとして、スペイン、クエート、そして日本などで活動が続けられている。



2. ブルガリアの旅行社・関係者からのコメント

(1)原爆展と被爆者証言をブルガリア国内の各都市で



ブルガリア旅行会社 SEMA
代表
Mihail Markov 氏
(ミハイル・マルコフ)

今夏、私を含め私のスタッフと共に「ひろしま・ブルガリア協会」の活動に協力させて頂くことが出来まして、大変幸せで光栄でした。

カザンラック市で開催された原爆パネル展及び若い少女の悲しい物語が非常に印象的で心に残っています。また、講演会で行われた佐々木夫人によるスピーチは非常に分かりやすく聴衆していた人達の心に訴えかけるような素晴らしく感動的なもので嗚咽を漏らすブルガリア人もいました。

原爆・・・これは二度と世界の何処にも落とすべきではありません！

ひろしま・ブルガリア協会のこの尊い活動により間違いなくカザンラックの多くの市民が原子爆弾がどのくらい酷いものか理解できたはずです。この原爆パネル展及び被爆者の証言はブルガリア国内の多くの場所で行われるべきでしょう。

ソフィア、ヴェリコ・タルノヴォ、ヴァルナ、ブルガス、プロブディフ、ルセ、他のブルガリア中の都市にて同じ展示会をする機会があれば、より一層多くのブルガリア国民が原子爆弾の酷さ、戦争の理不尽さを具体的に知り、さらなる日本とブルガリアの間の友好の橋が作られることでしょう。そのあらゆる活動に於いて私を始め SEMA一同どのような協力でも惜しまないと宣言いたします。

ブルガリアは日本と同じく多くの温泉・鉱泉が湧きでていて、美しい大自然がブルガリアのどこの都市でも近くにあります。SEMAでは特に古来から伝わるブルガリアの伝統美を外国人旅行者に伝えることをモットーとしております。

大手旅行会社のブルガリア団体ツアーではリピーター率が1%未満ですが、当社では少数人数のみの個人ツアーを行い全てのお客様の異なるニーズに対応することに成功しており何とリピーター率は30%を越えています。

そんな当社 SEMA Expressの心を込めたアットホームな旅行を広島の皆様方も是非お試し下さい。

(2)原爆展メーンの全ツアー企画でヒロシマを学ぶ



ブルガリア現地旅行会社 SEMA Express
マネージャー
神戸利浩氏

私はブルガリアに在住して8年目になり、旅行会社 SEMA Expressのマネージャーとして約2年間に渡りガイドブックには記載されていないブルガリアの魅力を、日本の個人旅行者の方々に様々なスタイルのブルガリア旅行をプロデュースさせて頂いております。

今年の初夏、ひろしま・ブルガリア協会の今村様から「ブルガリア第二次訪問団・広島原爆展」のボランティア旅行に際し、私に全ツアースケジュールの管理・手配をするようお申し付け頂きました。ブルガリアが誇る薔薇の都「カザンラック市」で行われる広島原爆写真展をメインとした旅程でした。

正直に申しますと今村様からこの企画についてお話いただけるまで、私は日本人として生きてきて30年になりますが恥ずかしい話、一度も原爆について関心を持ったことがありませんでした。知っていたのは「広島と長崎に原爆が落とされ数十万人の人が亡くなった」程度のことでした。

しかし、今回の依頼を受けて第二次訪問団がブルガリアにいらっしゃる



SEMA Express のメンバーと山岸書記官
(2006年7月30日)



マルコフ社長宅で日本食をご馳走に
(2006年8月4日)

にぎり寿司や日本そばなどの日本料理を神戸さんやマルコフ社長の家族らがもてなして

廃墟からの復活

1、広島から広島へ

1945(S20)年8月15日の終戦を受けて、一時的にせよ旧軍都として被害者の立場でもあった広島は、世界最初の被爆地という苦しみ乗り越えて平和を望む広島、そしてヒロシマへと新たな出発を期した。

廃墟からの復活 立ち上がる市民



2、平和記念都市建設法

廃墟から立ち上がり復興させていくために国会は、1949(S24)年5月に「広島平和記念都市建設法」を可決した。

この法律は、住民投票で過半数の同意が必要としているため、同年7月7日に日本で初めての住民投票を実施。その結果、市民の圧倒的多数の賛成を得て、平和記念日の8月6日に公布・施行されたのである。

街の再生



3、世界平和のシンボル

この法律により、国家的事業として、広島市を世界平和のシンボルへと建設することが確立された。

原爆の被害を受けた地方都市・広島の復興が、「世界平和の原点」と位置付けられたことは、核時代を迎えた日本と世界にと

前に皆様の同行をする当社ツアースタッフのブルガリア人みんなに広島原爆について詳しく説明をする必要があると感じました。それは「お客様側の立場・気持ちを理解することにより、一層気持ちの良い旅行を提供できるだろう」という当社の考え方もありますし、日本人として知っておくべき事由だと思ったからです。原爆について全く知識が無かったので何もスタッフに説明できる訳も無く、インターネットを通じ一から勉強いたしましたところ、沢山の情報と被爆者の写真やメッセージ等が出てきました。手当たり次第に情報を読み漁っていききましたが、知れば知るほど胸が熱くなり原爆に対する激しい怒りを感じました。

この人類が引き起こした最も重い災厄が私の生まれ育った平和な日本で起きていた。この事実を今まで見てみないふりをしてきた。私を含め今まで無関心だった若い世代にも知ってもらうべきであり、平和を続けるたえにも、この悲しい事実を世界に伝えるのは唯一の被爆国である日本人の役目ではないか。そう強く思い私は寄せ集めの知識をブルガリア人のツアースタッフ全員に説明したところ、驚いたことにみんな私よりも日本の歴史に詳しく広島原爆のことも熟知していました(笑)。

そしてツアースタッフだけではなく多くのブルガリア人が老若男女関係なく、原爆について勉強していることが、今年の8月6日に分かりました。今年の8月6日、丁度、第二次訪問団がブルガリアの観光地・コプリフシチユアーをツアースタッフと回っている時のことでした。

私は他の仕事があり残念ながら第二次訪問団には着いていけず、ソフィアで仕事をしていたのですが、その時に提携先企業のソフィアで仕事をしていたのですが、その時に提携先企業の若いブルガリア人担当者に当社社長マルコフはどうしているんだと聞かれました。

「広島からお客さんが来ていてマルコフと一緒にブルガリアを案内しています。」と私が答えたところ、彼はすかさず「広島」という言葉に反応して「ちょうど今日、8月6日に日本の広島に原爆が落とされたのでしたね。」と言われたのでビックリしました。先日、私が勉強した時には被爆内容や被爆者の現状が中心でしたので、原爆投下の日などは覚えていませんでした。驚いて彼に何故そんなに詳しいのか尋ねたところ、彼の方が驚いて「世界で起きた最も重大な戦争犯罪だから知っていて当然。日本人なのに何故知らないの?」と言われました。私は穴があったら入りたいと思いましたが、恥ずかしさ以上にブルガリア国民が若い人でも原爆について知っており関心を持っていることに嬉しさと切なさを感じたことを覚えています。しかし、まだまだ私のように無関心で知らない人たちが多いのも事実です。日本、ブルガリア、世界に原爆及び戦争の愚かさを伝えていくべきだと思います。

ひろしま・ブルガリア協会のブルガリア国内に於ける国間友好活動と原爆の恐ろしさを広める活動に心から敬意を表し、私も同じ日本人として今後も尽力させていただきたいと強く願っております。

(3)ヒロシマの訪問団から平和の大切さを学ぶ



ヴェリコ・タルノヴォ大学 日本語学科2年生
同社日本語通訳アシスタント
Nadia Markova さん
(ナディア・マルコヴァ)

わたしはナディアといいます。ヴェリコ・タルノヴォ大学の大学生2年生です。ヴェリコ・タルノヴォの大学で日本語を勉強しています。

ヒロシマの代表団の人達をブルガリアの案内をするのは非常におもしろくて勉強になりました。

この組織の活動でブルガリアと日本との関係が若年層に深まり、わたしが平和が大切であるに違



ツアレヴェッツの丘の入口で

いないということを学んだ中で最も重要なものが分かりました。わたしがツアーに参加できたのが幸運で嬉しいことでした。ありがとうございました。

今村さん、海生さん、佐々木さん、ひろしま・ブルガリア協会のみなさん。幸運と健康と成功があることをヒロシマのみなさんに願いたいと思います。(ナディアさんは将来、日本に関係する仕事に就きたいと願って今、日本語を一生懸命に学んでいます)。



ナディアさんの家族
(2006年8月1日)

っても歴史的に大きな意義をもつものとなった。

4. 核兵器のない世界を

以後、「核兵器のない平和な世界の構築」を目指して世界平和市長会議や原爆展の開催、平和メッセージの発信などの平和政策の推進に取り組んでいる。

核兵器のない平和な世界へ



5. 政令都市に発展

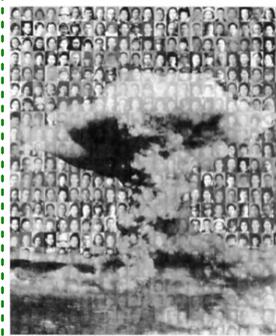
そして、今や120万人の人口を抱える政令都市に発展した。

6. 被爆者の治療対策

一方、原爆被爆者対策では、1952年(S27)年4月に「戦傷病者戦没者遺族等援護法」が制定。

翌28年には、原爆障害の研究、治療の対策を図ることを目的として、広島市原爆障害者治療対策協議会(原対協)を発足し、被爆者の治療を開始した。

きこの雲の下には...



HIROSHIMA & NAGASAKI

7. 被害者治療援助請願

同年7月、国会で「原子爆弾による障害者に対する治療援助に関する請願」が採択され、原対協に関係する経費が初めて国から支出された。

これは、広島市と長崎市の市長と議長が連名で、

3. 「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」の波紋 カザンラック近郊で「子供平和展示会」を開催



JICA青年海外協力隊16年度2次隊
村落開発普及員
林 夏音 さん

10月25日は一体何の日でしょうか。広島の皆様でしたらすぐわかるかもしれませんが。10月25日は千羽鶴の話で有名で、また原爆の子の像のモデルともなった佐々木禎子さんの命日です。

カザンラックでは今年8月にアートギャラリーにて広島の原爆展(主催:カザンラック市、ひろしま・ブルガリア協会)が行なわれました。

その際にこの展示を見たエニナ村のコミュニティセンターのアニヤさんの発案で、子供たちに平和の大切さを知ってもらいイベントを開催できないかということで、企画されました。

10月25日にイスクラ図書館で開催された子供平和展示会・「Detsata Iskat Mir」(Children want Peace)のオープニングセレモニーでは、カザンラックのアントン・ストラシミロフ小学校の子供たちの絵が展示され、ヤナ幼稚園の子供たちは「幸せなら手をたたこう」の歌にあわせてダンスを披露しました。また、子供たちの絵の表彰式も開催されました。

この展示会を通して、子供たちが平和の大切さを考える大きなきっかけとなったと思います。子供たちが将来、平和な世界を築く行動をそれぞれの方法でもらえれば嬉しいなと感じました。



(2006年10月25日)



子供平和展示会に参加した小学生たち(林さん提供)

4. ソフィア市でも原爆展(写真は、地球と人間国立博物館の提供)



「8月6日にソフィア市の地球と国立・人間博物館で『被爆敷石の展示会と原爆写真展が開催された』とのニュースを聞いたから行って見よう」と誘われて、8月8日(火)にJICAブルガリア事務所の香川所長とともに今村団長が会場を訪れた。前日の7日(月)にも訪れたが休館日だったので再度、期待を掛けて訪問した。

被爆敷石は、7年前に広島電鉄・市電の被爆敷石を世界に送るボランティア団体から大統領に贈られたもので、同博物館で展示されてきた。4年後の2003年に同博物館長から要請を受けた在ブルガリア日本国大使館の荻野毅書記官(当時、現・外務省欧州局中・東欧課事務官)が、わざわざ広島平和記念資料館(原爆資料館)まで出向いて、原爆展に展示する被爆写真ポスターの貸し出し手続きをして、ソフィアまで送り届けたのが始まりという。

同博物館には、世界の珍しい鉱石や宝石など地球と人間を結びつけるものが展示されていたが、被爆敷石と原爆写真は同館のどこにも見当たらなかった。職員に尋ねてみると、去年は8月に原爆展を1週間開いたが、今年は8月6日の1日だけで、被爆敷石などは倉庫に収納しているという。そこで同館コンピューター室長のペタル・デルチェ氏から当日の様子を写真で見せていただくとともに、写真を提供していただいた。当日の来館者は、約100人だったという。

カザンラック市のヒロシマ・ナガサキ原爆展も「開催は1日だけ」というこの舞にはならない、強くと思った。

衆・参両議院に請願したものだ。



8. 第五福龍丸の被爆

1954年(S29)3月、ビキニ環礁でアメリカの水爆実験によりマグロ漁船の第五福龍丸が被爆するというビキニ事件が発生。これに対して国は乗組員に治療と援護等を行った。



(都立第五福龍丸展示館ホームページより)

9. 被爆者治療費国負担

これを機に、被爆者の治療費全額国庫負担を求める声が高まり、1957(S32)年には、被爆者の健康診断と治療を国庫負担にする「原子爆弾被爆者の医療等に関する法律」(原爆医療法)が、1963(S43)年に「原爆特別措置法」がそれぞれ成立した。



10. 被爆者援護法

1995年(H7年)に従来の原爆二法を一本化した「被爆者援護法」が施行され、被爆者に対する保健、医療および福祉にわたる総合的な援護対策が講じられることになった。



「ヒロシマの日」8月6日、年1回開かれている被爆敷石と原爆展
(首都・ソフィアにある国立・地球と人間博物館で)

IV. 第1回・「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」に参画して

1. 一年前の「原爆展開催」の約束が果たせて感動

ブルガリア訪問団



第1次・団長代行、第2次・団長

今村 功 常任理事・事務局長

ブルガリア共和国カザンラック市での初の「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」が8月1日から同31日まで開かれました。オープニング・セレモニーでは、広島市の秋葉市長から預かった「2020年までに核兵器の廃絶を」とのメッセージを代読・披露し、参加者から共感の拍手を浴びました。

後日に問い合わせたところ、約800人の市民が訪れたとのことでした。同市人口7万人の1.1%に当たる人が来館したことになります。オープニングの時には、17時という中途半端な時間帯にもかかわらず、テレビ局や新聞社などマスコミ5社の関係者と約60人の市民が駆け付け、原爆被害の写真を熱心に見入っていました。数日後に訪れた遠く離れた田舎町で、全国版のテレビや新聞にも報道されたと聞いたことから、今回の原爆展は、まず成功したと言っても過言ではない、と思っています。

中でも今回の原爆展で大きな反響を呼んだのは、被爆者・佐々木理事の「被爆の証言」でありました。同理事の生々しい被爆体験や放射能、熱線、爆風による原爆の脅威を伝える声に、参加者は真剣に耳を傾け中にはそっと目頭を手で拭う人もいました。

「語り」は通訳を含め1時間半余り。終了後、ある壮年は、「思い出したくない苦しい過去をよく話してくれた。まさに平和の天使のような人だ」と。また、ある婦人は「もっと多くの人に聞いてもらいたかった。戦争は絶対にいけない。平和な地域や国、世界をつくらなければ・・・」、ある青年は「とくに若い人たちに原爆・核兵器の恐ろしさを認識してもらわないといけない」と感想を語っていました。

佐々木さんには今年2月7日に会い、「参加費用は全額自己負担で、原爆展に語り部として参加していただけますか」と相談したところ、数日後に「参加します」とのご返事を受けて実現したものです。内心ホッとしました。というのは、それまで数人の被爆者の方に声を掛けたが、「旅費を協会でも負担してもらえたら参加する」と断られたからです。

被爆者の方は、高齢になられて年金暮らしの方が多いいことを思えば、「参加したくても行けない」という実情を改めて認識しました。被爆者の方が次々と亡くなられていく中で、ご存命中の被爆者の方は、「生き証人」として重要な方ばかりです。年々、被爆体験の継承が危ぶまれている中、海外で証言活動をしようという方の旅費負担を広島市などで考慮することが急務、と痛感しました。佐々木さんには、当協会の理事も引き受けていただき只々、頭が下がり感謝するばかりです。

なお、今回の原爆展は昨年、被爆60周年・世界平和市長会議に参加したダミヤノフ市長が平和市長会議と平和記念式典に参列した後の8月6日午後、当協会の浅野洋二相談役と私が懇談した席上で、協会側から「カザンラック市で原爆写真展の開催を」と提言したところから、具体的に動き出したものです。同市長は「グットアイデアだ。カザンラック市で是非、原爆写真展を開きたい。私は、これから広島を出发しなければならぬので、貴協会が関係当局との橋渡しをして欲しい」と依頼し、開催を約束されて、広島を発たれたのです。



ダミヤノフ市長の歓迎会で
(2005年8月5日)

11. 被爆者の数

①8月6日～12月末までの死者数

広島市＝約14万人
(±1万人)
長崎市＝約74,000人

②原爆死没者名簿登録者数

広島＝247,787人
2006(H18)年8月6日現在
長崎＝140,144人
2006(H18)年8月9日現在

③被爆者総数

2001(H11)年
広島市調査
全国＝541,817人
死亡者＝273,212人

④被爆者健康手帳所持者数

全国＝259,556人
(2005年3月末現在)

原子爆弾

原子爆弾は、核分裂連鎖反応によって発生する巨大なエネルギーを利用した爆弾。広島と長崎に投下された原子爆弾は、それぞれ約20トンと約3.2トンの核分裂性物質を含有していた。核分裂連鎖反応は、核分裂性物質が分裂する際に発生する中性子を他の核分裂性物質に吸収させることで連鎖的に進行する。この連鎖反応が制御されずに行くと、短時間で大量のエネルギーが放出され、爆発が起こる。

原子爆弾の種類

- 原子爆弾 (A): 核分裂連鎖反応を利用した爆弾。広島と長崎に投下された原子爆弾は、それぞれ約20トンと約3.2トンの核分裂性物質を含有していた。
- 水素爆弾 (H): 核融合反応を利用した爆弾。原子爆弾よりもはるかに大きなエネルギーを放出する。1952年にアメリカが初めて実験し、1953年にソ連が実験した。
- 熱核爆弾 (T): 原子爆弾と水素爆弾を組み合わせた爆弾。原子爆弾の爆発によって水素爆弾の核融合反応を誘発させる。1953年にアメリカが初めて実験した。

原子爆弾の威力

原子爆弾の威力は、核分裂性物質の量によって異なる。広島に投下された原子爆弾は、約20トンと約3.2トンの核分裂性物質を含有していた。長崎に投下された原子爆弾は、約3.2トンと約0.4トンの核分裂性物質を含有していた。原子爆弾の威力は、核分裂性物質の量の平方根に比例する。つまり、核分裂性物質の量が10倍になると、威力は約3.16倍になる。

原子爆弾の被害

原子爆弾の被害は、爆発の瞬間に発生する熱線、放射能、爆風によるものである。広島に投下された原子爆弾は、約20トンと約3.2トンの核分裂性物質を含有していた。長崎に投下された原子爆弾は、約3.2トンと約0.4トンの核分裂性物質を含有していた。原子爆弾の被害は、核分裂性物質の量の平方根に比例する。つまり、核分裂性物質の量が10倍になると、被害は約3.16倍になる。

HIROSHIMA & NAGASAKI

世界の核兵器状況

<核兵器保有国と(核弾頭数)>

核兵器は秘密兵器と指定ために調査期間により推計値に幅がある。

1. 「核兵器国」

- ①アメリカ (約7600～12000発)
- ②ロシア (約8300～20000発)
- ③フランス (約350～500発)
- ④中国 (約300～400発)
- ⑤イギリス (約200発)

2. 「核保有国」

- ①インド (約30～35発?)
- ②パキスタン (約20～50発?)

3. 「核保有確実国」

- ①イスラエル (約200発?)
- 以上、8か国で総計約16000～17000発に上っている

開催を約束され、広島を先に見たいのです。

その後、広島市や広島平和記念資料館、外務省、在ブルガリア日本国大使館、JICAブルガリア事務所、などのアドバイスやご支援、ご協力をいただきました。また、昨年5月14日に同国のアルゲン・マーリン副大統領が来広した際に、広島の平和記念資料館の見学や秋葉市長との会見、慰霊碑への献花などの案内をしたことが、わずか1年後に原爆展の開催が実現した一要因になっている、と思えてなりません。

何故かという、同資料館の担当責任者から「平和市長会議に参加した各国の市長が原爆展の開催を約束して帰国しても、種々の理由や圧力団体からの反対で実現するのが難しいのが実態」と、事例を挙げて教えて下さったからです。

第1次・訪問団でダミヤノフ市長と懇談した際には①8月に予定通りに原爆展を開催②その際には協会からも参加を③毎年8月に原爆展を開催する④8月以外には周辺市町村に呼び掛けて巡回原爆展を開くよう働き掛ける・・・と確約と当協会への要望も出されました。

何はともあれ、昨年来の「約束」を実現させることができました。この喜びは、当協会の全員の心に共鳴したことを思っています。

2. ヒロシマの願いと当協会の友好の輪の更なる広がり



第2次・ブルガリア訪問団

団員

海生 郁子 会長 夫人 英語通訳者

初めての東欧圏訪問への期待と不安、また、被爆写真展オープニングへの出席という重責を感じながらのブルガリアへの旅立ちとなりました。予備知識として、日本人の平均収入の十分の一とか、旧共産圏であるというややマイナスイメージがありました。美しい山々に囲まれた自然、そこから湧き出る豊富で良質の水、果てしなく広がる肥沃な大地がもたらす豊かな収穫。それらを楽しんで暮らす人々の穏やかさと暖かさが感じられ、直ぐに心が和んでいきました。

また、古くから高度な技術・美意識を備えていたこと、人々が500年も続いたオスマントルコ圧政時にどれほど祖国解放を願い続けたかということ、深い敬虔な宗教心を持っていることが、史跡・名所を訪れる度に随員の旅行社スタッフから熱く語られ、伝統や歴史を大切にしている国民であることを感じるようになりました。

こうして、自然や家族を心から愛している人々に事前に触れることができ、被爆の悲惨さを伝える写真展をこの国の方々は抵抗無く受け入れて下さるだろうかという気の重さよりも、ヒロシマの不戦の誓い、恒久平和の願いは必ず共感して頂けると確信をもって、オープニングに臨むことができたことは幸いだったと思います。



センドフ大使とひろしま国際センターへ



広島修道大学で協会設立記念講演



マーリン副大統領一行を中国総合酒類研究所
(2005年5月15日)

佐々木愛子さんの被爆証言を聞いて下さった方々と、手をとって一緒に折り鶴を折ったこと、出来上がったいびつな折り鶴に皺だらけの顔をほころばせて笑顔を見せて下さったこと、愛おしくするように持ち帰って下さったことなど、忘れられない思い出です。こうした一つ一つの交流を通して、ヒロシマの願いそして当協会の友好の輪が更に広がって行って欲しいと心より願っています。

最後に、列挙することは自粛させていただきますが、今回の訪問に際し、衷心よりお世話をして下さった方々、何より被爆写真展に足を運んで下さった皆様にブラゴダリア！（ブルガリア語で有り難う）、心より御礼を申し上げます。

*海生会長夫人には、マーリン副大統領やセンドフ大使の来広時に同時通訳を、原爆展開催までのカザンラック市との連絡時に英訳をしていただきました。感謝申し上げます。

核軍縮の動き

①1989(H元)年

米ソ冷戦の終結。核軍縮の流れが出来る。

②1996(H6)年

米・ロ間で第1次戦略兵器削減条約(START1)を成立。

③1996(H8)年

国際司法裁判所が、「核兵器の威嚇または使用は、一般的に国際法に違反する」との勧告的意見を出す。

④1996(H8)年

国連で「包括的核実験禁止条約」(CTBT)を採択した。

⑤1996(H18)年

国際司法裁判所(ICJ)が「核兵器の威嚇・使用は一般的に国際法に違反する」との画期的な勧告意見を出す。

⑥2000(H12)年

核不拡散条約(NPT)再検討委員会が「核兵器廃絶を達成する核兵器国の明確な約束」を盛り込んだ最終文章を採択。国際社会は徐々に核軍縮へと進んでいった。

⑦1998(H10)年

インドが24年振りに、パキスタンが初めての核実験を行う。

⑧2005(H17)年

北朝鮮が核兵器保有を公式に宣言した。



2020年までに世界の核兵器廃絶を

1989(H元)年の米ソ冷戦時代の終結後、核軍縮の動きが見られた。しかし、その後、地域・民族・宗教あるいは独裁国家による紛争やテロ行為、核実験・核兵器開発などが相次いで勃発して

3. 被爆の実態を知って幸せな未来づくりの一粒の種に

第2次・ブルガリア訪問団



団員

佐々木 愛子 理事 被爆者

ブルガリアのカザンラック市で初めての原爆写真展がカザンラック市で開かれる、それに被爆者が参加して現地で被爆証言を・・・との依頼を受け参加することになった。主催は、ひろしま・ブルガリア協会とカザンラック市で、開催期日は8月1日より1か月間、その後各地を巡回する、最初のオープニングセレモニーに参加し後日、会場で被爆証言をする。海外に何度か出かけてはいたがブルガリアは今回が初めてで早速、本などでにわか勉強にとりかかった。婦人国際平和自由連盟の会合でその話をする仲間の人たちが高度な技術の素晴らしい鶴を沢山折って届けてくれ、会場に見えた方達に「ひろしまからの平和のメッセージ」として渡して欲しい、との言葉をもらい感激して持参した。

実際に現地に行き感じた事は、とても親日的で日本の事をよく知っている人が多い。それに第2次世界大戦の時、ブルガリアは日本・ドイツ・イタリア・ブルガリアと同盟関係にあったようで、連合軍と戦い首都ソフィアは連合軍の爆撃にあって街は大打撃を受けた事、またブルガリア人のルーツをたどれば蒙古から来た民族である事など日本と大きく関係がある事が分かった。

ブルガリアはバルカン半島の中程に位置し、多くの国に接している事からか、過去において非常に長い間、他国に支配抑圧されていた経緯があり、国として独立し、どこの国からも支配されず自由に生活できる平和の大切さを人々は強く認識していることを感じた。

原爆展の会場は、広島市平和記念資料館からの英語版とロシア語版の写真がカザンラック市の計らいで素敵にレイアウトされ、40才より若い

1989(H元)年の米ソ冷戦時代の終結後、核軍縮の動きが見られた。しかし、その後、地域・民族・宗教あるいは独裁国家による紛争やテロ行為、核実験・核兵器開発などが相次いで勃発している。

2001(H11)9月11日に起きたアメリカ同時多発テロ以降、アフガニスタン戦争、イラク戦争などが起こり、核兵器使用の危険性が高まり、世界の平和と安全が脅かされている。この中で、広島市は2020年までに世界の核兵器の廃絶を目指す「緊急行動」を展開。これに呼応して、欧州怪異や全米市長会議、核戦争防止国際医師会議(IPPNW)など多くの機関が緊急行動への支持を決議している。

ヒロシマは、さらなる平和宣言と平和連帯を呼びかけている。

人は英語、上の方達はロシア語を理解されるとの配慮で2種類のパネルが展示されていた。カザンラック市の市長が昨年8月、世界平和市長会議で来広された際、当協会役員がカザンラック市での原爆写真展の開催を、と提言したところ、同市長が快諾され「来年、是非カザンラック市で原爆展を開きたいので関係当局とのパイプ役をお願いしたい」と帰国された事から話が進んでいったとのこと。

その後、当協会が、広島市、広島市平和記念資料館、在ブルガリア日本国大使館、JICAブルガリア事務所などと連携を取り、大きな協力を受けたことによって原爆展が実現した事の意義は大きいと感じている。

原爆が普通に生活していた人々を一瞬のうちにどう変えていったのか。多くの人を死に追いやり、かろうじて生き残った人々を原爆後障害によって何十年も苦しめ続けている事を、一人でも多くの人に実態を知ってもらい、その意味を考え、人々にとって幸せな未来を造っていく・・・その一粒の種になればと願っている。

広島に帰郷してから

I. 帰国後の活動

1. 第9回・理事・幹事会で訪問団の報告



第1次・2次・訪問団に参加したメンバーによる告会

界遺産のリラ僧院や緑豊かな山と高原が美しかった、若者のファッションが素晴らしかったと紹介した。

第2次・訪問団の海生会長夫人は、親日家が多く、日本にあこがれている若者が多くいた、被爆写真展と被爆者の証言は大きな反響を呼んだと報告。今村常任理事・事務局長は、ブルガリアの医療事情や福祉対策が大幅に遅れている実情を紹介しながら、今後、協会では児童福祉施設・「聖イヴァン・キルスキ」(現地では孤児院)に薬の造営支援の手を差し伸べることを考えたいと訴えた。

ひろしま・ブルガリア協会は、9月10日(日)午後1時30分から、中国環境パートナーシップオフィスで第9回・理事・幹事会を開き、席上で第1次・第2次・「ブルガリア訪問団」の報告をした。

同理事・幹事会では、第1次・訪問団の本多みとり、佐藤佳代子両理事、今村悦子会員と第2次・訪問団の海生会長夫人と両訪問団に参加した今村常任理事・事務局長らが、ブルガリアでの感想を報告した。

第1次・訪問団の本多みとり理事らは、世

2. 広島市の秋葉市長に帰国報告

第2次・「ブルガリア訪問団」の一行は、カザンラック市での第1回・「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」の開催など当初の予定を全て終え、8月9日(水)午後、ブルガリアのソフィア空港から帰途についた。そして、団長の今村功常任理事・事務局長、海生郁子会長夫人、佐々木愛子理事は、第1版・報告書をまとめて9月20日(水)午後、佐々木典明代表理事、渡辺好造理事(広島市議)らとともに、広島市庁舎に秋葉忠利市長を訪ねて帰国報告をした。

席上、今村団長から、カザンラック市のステファン・ダミヤノフ市長から預かった親書(次項掲載)と、同市長が銘柄を付けたブルガリアの白ワイン・TRAMINER・「Khan Krum」(カン=帝王 クルン=名前)を秋葉市長に手渡した。

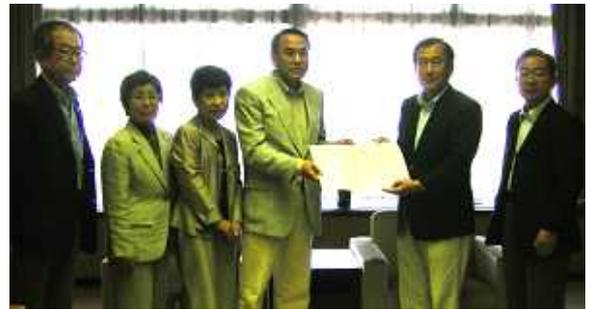
秋葉市長が、大のワイン好きだということを聞いたダミヤノフ市長が、今後の広島市とカザンラック市の友好交流の推進の意味を込めてプレゼントされたもの。

佐々木代表理事は、26年前にテレビ記者として35日間、ブルガリアで取材

してきた時のエピソード(2. 訪問団派遣についてを参照)を交えながら、ブルガリアの親日振りを紹介した。

海生会長夫人は、第1回・ヒロシマ・ナガサキ原爆展の反響と特に佐々木理事による「被爆の証言」に大きな反響があったことや、思った以上のブルガリア市民の親日振りに驚いたこと、歴史と文化と自然の豊かな国との印象を伝えた。

佐々木理事は、ブルガリアの市民が原爆のことは知っていたが、具体的な被害状況などはほとんど知らなかったので、被爆証言をして市民の間に「反核兵器と恒久平和」の重要性を共有できたことを感じたことと報告。さらに、JICAブルガリア事務所



ダミヤノフ市長からの親書と白ワインを
秋葉市長に渡す訪問団メンバーら
(2006年9月20日)

の香川敬三所長から、カザンラック市で計画している日本庭園の中に平和を象徴する折り鶴の塔のようなモニュメントを造ることができないか、との提言があったことを伝えた。

今村団長は、8月の1か月間に開かれた原爆展の参加者が延べ約800人に及んだことや、カザンラック市で初めての原爆展であり、ブルガリアで初めての被爆証言がブルガリアのテレビや新聞などで全国に報道され大きな反響を呼んだ、と紹介。さらに、同市では①毎年8月に原爆展を開催②その他は周辺の市町村に呼び掛けて巡回展をする予定であることや、原爆展オープニングの夜に申し入れがあったダミヤノフ市長から「友好交流の提言」(13ダミヤノフ市長から夕食会に招待され、広島との交流で提を参照)を伝えた。

これに対し、秋葉市長はダミヤノフ市長の提言の実施には費用が掛かることなので、ひろしま・ブルガリア協会が中心になり全国のブルガリア協会や経済界などに呼び掛けたらどうか、と提唱した。広島市も何で協力できるか検討したい、と語り、今後の活躍に期待を寄せた。

3. カザンラック市長からのメッセージ

広島市長

秋葉 忠利 様

カザンラック市長

ステファン・ダミヤノフ



カザンラック市で初めて開催される原爆展の開会式に参加するため広島から興しになっている訪問団に、貴台ならびに貴市へのメッセージを託させていただきます。

今日まで数十年にもわたり、世界は核の脅威にさらされており、この事実が未来への展望を曇らせてきました。

原子爆弾により引き起こされた苦しみの影は、人類の重荷であり、人類滅亡の脅威であり続けています。

世界の人々は、長年にわたり、この脅威を取り除くことを強く望んできました。世界の人々の願いにこたえ核兵器を2020年までに廃絶し、世界平和を構築しようとする平和市長会議の取り組みは、地球を守り、人類の歴史を継続させる責任を個々人に感じさせるものです。

カザンラックが、悲惨・残酷さを伝える原爆ポスター展を市民や訪問者に紹介する機会を得たこと、また、この展示会により、核の脅威を無くすため、世界中の人々の意識を高め、国際的取り組みが行われるよう、多少なりとも貢献できることをうれしく思います。

世界平和を構築するという平和市長会議の究極の目的を達成することは、幻想ではなくなり、現実のものとなっていくことを、我々は手を携え、人々に表明します。

「ひろしま・ブルガリア協会」の多大なご協力をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、貴台ならびに広島市民の皆様のご健勝とご繁栄をお祈り申し上げます。

4. 原爆展の報告会(第2期第2回・「ブルガリア理解講座」)

500年間のオスマントルコ圧政などで「自由と平和」の大切さが国民の間に浸透

被爆者・佐々木愛子理事が反響などを紹介

第2期第2回・「ブルガリア理解講座」として、カザンラック市の第1回・「ヒロシマ・ナガサキ原爆展の報告会」を11月26日(日)に広島市中区のEPO中国で開いた。報告者は、第2次・「訪問団」のメンバーとして参加した被爆者の佐々木愛子理事で、今村功専務理事(10月から)がパワーポイントで映像を写しながら補足説明をした。

佐々木典明代表理事は、26年前にブルガリアで35日間のテレビ取材と報道したキッカケで当協会設立に参画したことを説明した後、同原爆展を開催し成功させて帰国した訪問団をねぎらうとともに、カザンラック市での今後の原爆展の持続的開催に期待を寄せた。

佐々木(愛)理事は、初訪問したブルガリアの市民に対して、「穏やかで親日派が多くて安心して親近感が持てた」と第一印象を語った。また、現地で第2次世界大戦の時に日・独・伊+ブルガリアだったために連合軍から爆撃されたことや、オスマントルコに500年間も圧制されて来た歴史から「自由と平和」の大切さが国民の間に浸透しているようだった、と感想を述べた。さらに、原爆展を開くに当たり、婦人国際平和自由連盟広島地方支部(達川順子支部長)のメンバーから核兵器廃絶と平和を願った「千羽鶴」を預かったことを紹介した。通訳を含めて約1時間30分の「証言」では、自らの被爆体験を伝えながら今後、核兵器が使用されると



第2期第2回・「ブルガリア理解講座」で挨拶する佐々木代表理事
(2006年11月26日)



カザンラック市での原爆展の様を聞く参加者と藤田副代表理事

人の暮らしがどうなるのかを説明し核兵器廃絶と世界の恒久平和の構築に向けて連帯したいと訴えてきたことを報告した。



さらに、ブルガリアではこの世では起こり得ないことをミラクルと言っているが、原爆被害から復興した広島は「8番目のミラクルだ」といわれたことを伝えた。

質疑応答の後、最後に藤田洋三副代表理事が今後の反核兵器・平和への取り組みの持続をと呼びかけた。

II. 当協会・役員からのコメント

1. 小さな国の大きな期待～ブルガリア～



ひろしま・ブルガリア協会

初代・代表理事

佐々木 典明 (株)中国放送 顧問

ひろしま・ブルガリア協会が発足して1年10か月。当初の計画通り2006年の夏、二つの友好代表団を送り出した。日本とブルガリア(人口750万人)の関係は、1936年の日独伊の三国防共協定にブルガリアが協賛する実質4か国同盟の関係にあった。

第二次大戦中も両国に公館が置かれ、淡谷のり子の「雨のブルース」が「ナミコ」という日本人女性の名前の曲として大流行し、戦後も国民的愛唱歌として受け継がれ、今も親日家が多い国のひとつだ。

ところで、県内で50を超える海外との友好協会がある中で、当会は、一番の新参で企業や団体の参加が少なく専ら個人参加をベースにした財政力が弱い協会である。

15年前までは、オスマントルコの圧政500年間から解放したソ連の優等国であった東欧の小さな農業国に関心を持つ日本の企業や団体が少ないのはやむを得ないことであろう。

そんな国との関わりは、世界の香料原料の7～80%を賄い、今や世界に知られるようになった「バラの谷」にある街・カザンラックと「バラの街=福山」の10数年の交流がベースにあって、来広するブルガリア人側からの強い要請があった。また、広島市長が会長を務める「世界平和市長会議」に首都・ソフィアとバラの街・カザンラックの市長が参加していることも背景の一つにあった。



カザンラック市のダミヤノフ市長を囲む夕べ
(2005年8月5日)

この一年余、会員は少ない資料やブルガリア通などの人脈を求めてブルガリア事情を知るための「講座」や留学生を通じて料理講習会を開いたり、バラの女王と日本語弁論大会優勝者の招待などの活動を重ねた。そして5月から6月そして5月から6月を挟んで10日間、10名の会員が第一回の訪問団として参加した。次いで7月末から8月の12日間、昨年の世界平和と市長会議に参加したカザンラック市長に協会側から提案したことを、快諾して開催された「原爆写真展」の開催に合わせて被爆者を含む3名を派遣した。もちろんブルガリアでの被爆証言は初めてである。

EUへの正式参加を直前に控えたこの国は今まさに発展途上にあつて、日本への多方面にわたる期待はとて大きいようだ。二つの交流派遣団は多くの交流を通じて、色々と大きな期待を寄せられた。一友好団体が受けるのは大きすぎる課題もある。外務省をはじめ県・市や企業などの理解を得ながら、個々の知恵と力を絞って息長く地道に取り組むほかならうと思う。

2. 一か月間に渡る原爆展を開催した同市長に敬意と感謝



ひろしま・ブルガリア協会
初代・副代表理事
藤田 洋三 会社顧問



リーガロイヤル・ホテルのスカイラウンジ・リーガール
(2006年8月5日)

あれは昨年8月5日、広島市中区で「カザンラック市長を囲む歓迎交流会」を開いて初めてダミャノフ市長と通訳のマリアさんにお会いしました。まさに、「ヒロシマの日」・8月6日の前夜でした。

交流懇談会、歓迎パーティの後、被爆後に復興した広島市街地の夜景を見てもらおうと、

リーガロイヤル・ホテルのスカイラウンジ・リーガートップで歓談しました。

その際、嫁いでいる久新潟県長岡市から振りに帰っていた娘・才木夕美子も誘って参加しましたが、娘は日常会話をインターネットでブルガリア語に訳して持参し、同市長に見せたところ「グー(良い)、グー」と微笑みながら言われたことが、懐かしく思い出されます。

被爆して満60年の夜、原爆で廃墟と化した広島を頭に浮かべ、戦後60年で120万都市として復興した街の夜景を見ながら平和の大切さを、しみじみと感じました。



ばらの女王らと藤田県知事を表敬訪問

話の中からダミャノフ市長は、世界の平和を強く願うと共に、今からブルガリアやカザンラック市を発展させるために日本の発展と広島の復興を参考にしながら日本・広島との経済交流の重要性を熱っぽく語られていたのが印象に残っています。翌8月6日の平和記念式典の後に、同市で「原爆展の開催」を約束され、満1年後のこの度、1か月間に渡る原爆展を開催された同市長に敬意を表すと共に感謝申し上げます。ありがとうございました。

3. ヒロシマ・ナガサキ原爆展の開催は広島にある協会の役割の一端



ひろしま・ブルガリア協会
副代表理事
佐々木 和子 日本語教師



第4回・ブルガリア料理を楽しむ会

ひろしま・ブルガリア協会では、関係者によるブルガリア理解講座や料理教室、ブルガリアからのJICA研修員との交流(下の写真3枚)、原爆展実施訪問団の報告会などに参画する中で、未知の国だったブルガリアについて毎回、新たな発見に接することができ感激しています。

中でも料理教室では、佐藤佳代子さんと責任者になり、「異国の料理を通して少しでもブルガリアに興味をもっていただければ・・・」との思いで取り組みました。料理教室の参加者とともに、何とか美味しい料理ができホッとしました。

JICA研修で来広された若い男女2人の方との交流では、洋服のセンスや所作も大変感じが良く、やはり国を背負っている方たちだなあ、と感心しました。

カザンラック市でのヒロシマ・ナガサキ原爆展の開催については、広島にある協会としての役割の一端を果たすことができた、と思っています。報告の中で、原爆投下は悪いと一方的に言うのではなく、「人類を減ぼす

核兵器をなくそう」と訴えてきたことが、ブルガリアでも共感を得たように思いました。

第1次・2次の訪問団の方には、本当にご苦勞様と申し上げたいです。



JICA研修員としてブルガリアの政府機関から来広したキタノフ氏(左)とペネヴァ女史(右)と懇談会

4. カザンラック市長や ばらの女王らとの交流が原爆展開催へ



ひろしま・ブルガリア協会
専務理事

高丸 晃 (旬巴紙工会長)

数年前に当社で受け入れていた障害者の社会摘要訓練事業・職親について取材を受けたことのある今村さんから「協力して」と誘いがあり、ひろしま・ブルガリア協会の設立に参加し、各種の活動にできるかぎり参画してきました。

ある時は当社がボランティアで毎年、参画しているバザール・テントの一角を提供して、ブルガリア支援のためにローズジュースの販売を、ある時には長年付き合ってきた方の協会顧問の願いを、またある時にはカザンラック市のダミヤノフ市長の歓迎会を、さらに同市のバラの女王・プラメナさんと日本語弁論大会の優勝者・エミリアさんを迎えての「ケーキパーティ」(於、ケーキレストラン Harvest Time)の開催など、わずか2年足らずの間に、数多くのブルガリアの方との素敵な出会いと楽しい思い出を綴ることができました。



祇園商工会議所の地域祭りに出店

ケーキパーティでは、同ケーキレストランのシェフ・杉田雅之・代表取締役が自らの創作ケーキ「ブルガリアン・キッス」で歓迎してくれたことも素晴らしい企画、と感動しました。



ブルガリアン・キッス

中でも、2005年8月5日にダミヤノフ市長と交流・懇談し、深夜の宿泊ホテルでの「灯ろう流し」の灯ろうへの平和流し」の灯ろうへの平和のメッセージを揮ごうされたことが一番、印象に残っております。確か同市長の平和のメッセージは

「平和は私たちの手の中にある。守らなければならない」というものでした。



ばらの女王らのためにケーキを創作してくれたシェフの杉田代表取締役とボラメナさんとエミリアさんら

ともあれ、カザンラック市での「原爆展」が無事、行われたことに対し、関係者の方々のお礼申し上げます。ありがとうございました。

その翌日、まさに被曝60周年の8月6日の平和記念式典の後、協会の今村さんらが提案した「カザンラック市で原爆展の開催」を同市長は「グットアイデア」と即答されたと聞き、前日の同市長の平和の揮ごうに則った提案と応諾だ、と感銘したものでした。

5. 核超大国・ソ連の優等国での原爆展開催に感慨無量



ひろしま・ブルガリア協会
常任理事

坂本 光裕 自治体職員

カザンラック市での原爆展の実施と成功に協力していただいた多くの皆さま方に感謝申し上げます。また、カザンラック市からのバラの女王らの招待事業に対しても多くの方のご支援、ご協力に対し、この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



2005年5月のマーリン副大統領の来広の際に、ソ連圏の核兵器ミサイル約150発のボタンを押す直前まで来たことを聞いて以来、ブルガリアでの原爆展の開催が実現すれば、とかすかに思っておりましたが、実現したことに感動すら覚えているところです。

この間、05年7月の協会設立の時に駐日ブルガリア共和国大使館のセンドフ特命全権大使、同年8月5日からのカザンラック市のダミヤノフ市長、さらに今年5月のカザンラック市のバラの女王・イヴァノヴァさんなどが相次ぎ広島に足を踏み入れ、全員が原爆資料館の見学や原爆慰霊碑への献花・黙祷、広島市長との意見交換などを行ったことが、全て「原爆展開催への道」に繋がっていたように不思議に思えてなりません。

学生時代には、社会主義政治思想史の講義も受け、社会主義思想に興味を抱き、少しばかりの本も読んでみました。そして、社会主義の思想には色々な系譜があり、決して「ソ連型社会主義」とイコールでないものと認識しています。

ソビエト連邦の崩壊とともに、最近は特に市場原理が強調され、「格差社会」が叫ばれる



昨今の世情で、社会主義思想なんか忘れ去られています。しかし、社会主義を標榜する国の現実はともあれ、社会主義思想の根幹ともいえる「公平性」という観点は忘れてはならないものと私は思っています。要は、一言で言えば、「自由」と「公平」のバランスをいかに取るのかということに尽きるということなのでしょう。

そのような折、ふとしたきっかけで、「ひろしま・ブルガリア協会」に入会することとなり、昔読んだことのある「深層の社会主義(1987年、青山学院大学教授袴田茂樹著)」を読み返してみました。

第2期・ブルガリア理解講座の原爆展報告会で

500年にわたるオスマン・トルコの支配下から解放してくれたこともあり、かつての超大国ソ連の優等生であったブルガリア。今でも親露感情の極めて強いとされるブルガリアのカザンラック市で「第一回ヒロシマ・ナガサキ原爆展」が開催され、被爆の現実が少しでも伝えることができたことに本当に感慨を抱いています。

6. これからの当協会・訪問団はブルガリア各都市で原爆展の開催を



ひろしま・ブルガリア協会

常任理事

三島 佳代子 日本語教師

ヒロシマ・ナガサキ原爆展のオープニングの様子を報告会の映像(パワーポイント)で見た時、海生さんが着物姿で参加され、日本文化の一端を紹介されていたことに感動を覚えました。広島に住む者として、海外での原爆展の開催は大変重要な視点だと思いますので、今後のブルガリア訪問の際には、できれば同国で1つでも多くの都市で原爆展を開催してもらいたい、と強く願っています。訪問団の方には、本当にご苦労様でした、とお礼を申し上げます。

協会が産声を挙げた時から参加しているので、大学の先生などが担当するブルガリア理解講座やブルガリア料理教室と楽しむ会、ばら女王と日本語弁論大会優勝者の招待、ブルガリアから来広したJICA研修員との歓迎懇談会、常任理事会など色々なイベントに、時間がある限り参画してきました。異業種の方と接する協会なので、色々な情報を知ることができ有意義に過ごしています。

中でもヨーグルトをふんだんに使ったブルガリア料理をつくるのが楽しくてたまりません。家でも何度かつくって家族に楽しみを分かっています。食を通して、国が変われば料理も味も変わる「食文化」を味わっています。

映像を通しての講座では、全く知らなかったブルガリアの歴史や文化、習慣などを学び、興味が湧いています。

日本語教師を目指す私の教え子の中に、ブルガリアで日本語を教えたい、という人もいますので、実現できるように可能な

限り支援・協力していきたいと思っています。また、2007年にEUに加盟した同国が社会的弱者にとっても暮らしよい国になるように強く願っています。



JICAブルガリア研修員との懇談会



ブルガリア料理とワインを楽しむ会



楽しいブルガリア料理教室で